

平成25年新年賀詞交換会

1月9日、市中央生涯学習センターで新年賀詞交換会が開催され、242人の市民が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。

ここでは、主催者代表の池辺勝幸市長のあいさつを紹介します。

市長あいさつ(要旨)

◇国の大型補正予算

皆さん、明けましておめでとございます。今年は、巳の年でございませぬ、色々波瀾万丈はあるかもしれませぬが、その中でもいい年になればと思っております。

衆議院議員選挙が終わって、田安・株高になり、お金が回りだして、今のところ、何れ期待が持てそうだと感じているところがございます。

現在、国が大型補正予算を編成中であり、来年度予算に間に合う



べく、実施設計をして発注の準備ができています。公共事業については予算を配分すると聞いております。牛久

市は、来年度のための事業を相当準備してあります。今回の国の大型補正予算で、実施設計ができていて、発注の準備ができています。公共事業は優先的に補助金を配分し、さらに、市負担分についても国が臨時交付金として財政援助するというところで、1兆4千億円ほど用意したそうです。ですから、国の補助と、市の自己負担分、行政用語でいうと一般財源の部分も国からのお金を活用して、今年に必要な事業を前倒しで発注していきたい、と考えております。

そしてそのことは、言葉を変えれば、牛久市にとって、次の仕事をするための準備と、そして市民の皆さんのための福祉の維持向上のための財源として、余裕財源の確保が可能になります。牛久市にとっても、この政権交代からの流れにうまく乗っついていこうという準備が整いつつあります。

その先を考えれば、消費税率が8%、そして10%と上がってくる間

題もあります。しかし、それを乗り越えて、もっと大きな問題である、国の借金、県の借金、そして牛久市の借金もきちんと減らしていき、そして私たちの生活が、とんでもなく豊かではなくても、安心して、お互いに手を取り合って生活できる、そういう環境を作っていければという風に思っております。

◇仕事を追いかける市役所に

私は、市長として今回でちょうど10回目の賀詞交換会を迎えました。市長就任時の平成15年度には約9億円の地方交付税が国から来ていましたが、平成16年度には約4億4千万円、平成19年度には約2億3千万円、その後も減少していく中で、市民の皆さまには我慢を強いたこともありました。

しかし、それも行財政改革の結果、取り戻すことができました。私が市長に就任してから3年後に、資産の洗い出しをしました。その結果、初めて分かったのですが、牛久市は約74億円の含み損がある財務状況でした。ですから、目先の資金繰りについては、何もできない、何をどうやるうとしても削るところから入ったわけです。そのため、市長就任時の1期目というものは、いかに乗り切るかということをやって参りました。そして、ようやく平成18年度当初予算の一般会計で、予算を

180億円まで落としました。平成25年度の一般会計は約230億の見込みです。収支を合わせるために、それと将来のための財源を捻出するために、内部改革と、そして市と取り引きのある業者の方々にはご協力をいただながら、何とか進めてきました。物を買ったりするのに見積もりを取って、安いところをお願いせざるを得ない。それを繰り返しました。

内部管理経費の圧縮として、電算経費についてはITコーディネーターという外部の専門家による見直しを行ったことにより、平成17年度に牛久市の基幹システムをホストコンピュータ方式からクライアントサーバー方式に変更することで、6年間で約4億5千万円もの運用経費を削減することができました。こういったさまざまな改革を行い、180億円の予算でも耐えられる体質を作ってきました。

しかし、それだけでは街は成り立ちません。節約だけでは、魅力ある街づくりはできません。そして、約5年前からようやく徐々に資金繰りの目途をつけながら、必要な事業を行ってきました。やらなければならぬことはまだまだ山積してあります。過去からの課題もありましたが、それを一つ一つ解決してきました。細かいものを何でもやり、課題を減

らしていき、そして手元にある要望書を大幅に減らしていく。そのことによつて初めて、仕事に追われていたのを、今度は「仕事を追いかける市役所に変える」、そういうような努力をしてきました。

1つの街は、その街の市役所や職員が、どういつ気持ちで、どういつ働き方をするか、そのことによつて決まります。皆さまのご理解とご協力をいただいで、約78億円の含み損のある街が、平成23年度の決算においては、約48億円の純資産のある街になりました。

◇子どもの人口の増加は茨城県一

若干資金繰りも余裕が出てきました。今までは、市役所の内部改革と、学校教育や子育て支援、そういうことをやってきました。そのことによつて、子どもたちが増えてきました。茨城県の常住人口の調査によると、15歳未満の子どもの人口は、県内で3市しか増えておらず、その中でも牛久市が一番増えていることが分かりました。1年間で160人増えていきます。その次に増えたのがつくばみらい市で80人、隣のつくば市では1人です。茨城県全体では人口が300万人に到達しないなど、着実に人口減少をしています。

その中であつて、牛久市は、常磐線沿線では唯一、人口が増えている街です。この人口増が、市の一つ

の活力となつています。それと、もう一つの活力として、収益のある企業には大勢参加して欲しいと思えます。牛久市に進出している株式会社ホギメディカルから、今年、約200億円の投資をしていただけます。いくつかの進出企業から増改築の問い合わせもいただいであります。圏央道が開通し、成田方面への延伸を受けて、大きな設備投資が予想されますので、今後企業誘致は積極的にやって参ります。

◇8つの小学校区で課題解決

市の根幹の歳入となる、市税は今後10年間で着実に減っていくと予想されています。地方交付税も国の危機的な財政状況から、今後減少が予想されます。この歳入減の状況にかいとうまく対応し、そして、今までの守りの牛久の街を、これからの10年、20年を見据えた、夢のある街にしていくためには今後どうしていくのか。これが、今の私たちに与えられた課題です。たくさんの方々いろいろな委員会を作り、ご意見を伺い、牛久の街として地域のコミュニティを大事にした街づくり、若い人たちだけではなく、お年寄りの皆さんにも住みやすい街づくりを目指していこうと思えます。それと同時に、健康で経済的にも活力のある街にしていこうと考えています。

そのために、去年からではありま

すが、牛久市を8つの小学校区に再編しようと思つています。いつまでも牛久地区、岡田地区、奥野地区と3つの区域で分けている時代ではないと、私は実感しています。3地区に分けて行政運営しているものを、地域の中核として小学校を位置付ける行政区を、一つの単位として、子育てからその地域の街づくり、そして高齢者の皆さんの交流と同時に、介護の問題、施設づくりまで含めて、その8つの地域で解決していこうと考えています。

◇牛久駅周辺の住宅地再活性化

健康においては、スポーツ施設の充実も図りますが、ただ単純なスポーツ施設の充実は行いません。今、牛久運動公園野球場の改修をしています。これは市民の皆さんが、公の試合ができる施設として改修していきますが、その目的は市民の方だけの利用ではありません。改修することによつて、高校野球の予選会が開かれるかもしれません。平成31年に行われる茨城国体に向けて、軟式野球大会の会場となることも予定しております。スポーツ施設も、私たち市民の健康を維持すると同時に、それがイベント事業として活性化につながるように持っていこうと考えています。

それと同時に、ひたち野うしく地

区は、今元気があります。それに比べて、元気がないのは牛久駅を中心とした住宅地です。この地区の再活性化を進めます。

今、牛久市が進めているグリーンロード構想が、国土交通省のテーマとして取り上げられています。その中で、高齢化率が40%前後であるつじが丘・第2つじが丘の地域がモデル地区となり、その住宅地を再活性化する事業について研究が進められています。国と一緒に、これから牛久市の既存の市街地を含めた再活性化に今年から入っていきます。

さまざまな問題はありませんが、今年には波乱はありながらも、一つ一つ皆さんと共にその波乱を乗り越えて、次の牛久の街のありようというものを目指していきたいと考えています。

ぜひとも、皆さまのご理解と、また今まで以上の温かいご協力をお願い申し上げます。賀詞交換会に際してのあいさつに代えたいと思います。ありがとうございます。どうぞい

